

## 6. まとめ

平成16年度中寺廃寺跡発掘調査成果をもとに、各テラスに所在した建物の検討を行う。

第3テラスは心礎石を伴う礎石配置より塔跡であると考えられる。塔の上部構造を支えるために、礎石を岩盤上や堅固に造成された盛土上に据えている。瓦が未出土のため、屋根は樹木の皮や板等により葺かれていたと考えられる。塔の築造時期は心礎石下部遺構出土の遺物より10世紀前半と考えられる。周辺より出土した須恵器転用硯より中寺廃寺に識字層がいたことが確認できる。

第2テラスは平地寺院の伽藍配置と同様に建物の正面を避けて塔が立地することから、塔より上位の建物が存在したと考えられる。また土師器壺は集中的な出土より、灯明皿等の建物内で使用した仏具の可能性があり、鉄釘の集中的な出土、懸垂金具・かすがいの出土からは、仏像を安置する須弥壇等の屋内木造施設の存在が想定される。以上により、第2テラスは仏堂跡と考えられる。塔跡と同様に瓦が未出土のため、屋根は樹木の皮や板等により葺かれていたと考えられる。出土遺物の時期より存続期間は10~11世紀であり、途中で掘立柱建物から礎石建物へと建替えられている。掘立柱建物に関しては桁行中央の柱間が他に比べ広いことから、建物桁行中央に両開きの扉などの上部構造が存在した可能性がある。

第2テラスに所在した建物の面積は狭いため、仏事などを行う際には建物前面の緩斜面を利用したと考えられる。山岸常人は平安時代に内陣と礼拝という性格の異なった空間を一つの建物の内部に併存させる中世的な仏堂の空間構成が創出されるとするが、中寺廃寺跡第2テラスの仏堂は内陣のみで構成されるため、古代的な仏堂の様式を留めると考えられる。

第1テラスに所在した建物は、塔・仏堂の背後に立地すること、掘立柱建物であること、塔・仏堂と方位がほぼ一致することより、僧房などの生活遺構が立地すると考えられるが、確実な遺構を検出していないため、今後の調査成果に期待したい。

以上、今年度調査成果により中寺廃寺跡A地区は字中寺の中心に位置し、仏堂跡・塔跡を有する中寺廃寺跡の中心的な地区である事を確認した。

次に中寺廃寺跡A～D地区を含めた中寺廃寺跡の全体像について考察したい。字中寺の範囲内に中心のA地区を囲みB地区・C地区が立地する状況からは、A～C地区が同時に並存し、それぞれが有機的な関係で結ばれていたと推定される。また、文献調査の成果により、中寺廃寺は近世段階ではすでに廃絶しており、寺の名称不明であったが、その位置については現在のD地区の位置に所在したと伝承されていたと想定される。昭和59年度調査において中世前半～近世にかけての遺物が表掲されていることと総合すると、D地区は、A～C地区の継続期間中もしくは廃絶後に寺院が建造され、近世に継続していた地点である可能性がある。

中寺廃寺跡の調査はまだ始まったばかりであり、今後町民の参加を得てさまざまな視点から調査を行って行きたいと考えている。発掘調査成果に加え、周辺の文化財や社寺との関係も視野に入れながら調査を進め、中寺廃寺跡の歴史的位置を抽出してゆきたい。

#### 参考文献

- 伊沢肇一他1980『尾ノ背廃寺跡発掘調査概要（I）』仲南町教育委員会  
上原真人他2002『佛教藝術265 特集山岳寺院の考古学的調査西日本編』佛教藝術學會  
後藤健一他1997『湖西市文化財調査報告 第37集 大知波峠廃寺跡』湖西市教育委員会  
進藤政量1799『讀岐廻遊記』（1943『香川叢書』第3巻所収）  
杉本良2003『北上市埋蔵文化財調査報告 第55集 国見山廃寺跡』北上市埋蔵文化財センター  
中西昇1988『県道府中・琴南線改良工事に伴う 備中寺遺跡発掘調査報告書一付・中寺廃寺確認  
調査概報一』琴南町教育委員会  
松本和彦他2004『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第48冊 大山遺跡 中  
谷遺跡 楠谷遺跡』（財）香川県埋蔵文化財調査センター他  
山岸常人2000『中世寺院社会と仏堂』塙書房  
山元敏裕2003『史跡名勝天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書 I 史跡名勝天然記念物屋島』  
高松市教育委員会  
1976『佛教考古学講座 第1巻』雄山閣  
1986『琴南町誌』琴南町  
1995『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会  
2003『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』香川県教育委員会

第2表 中寺南寺跡出土遺物調査表(1) 土器

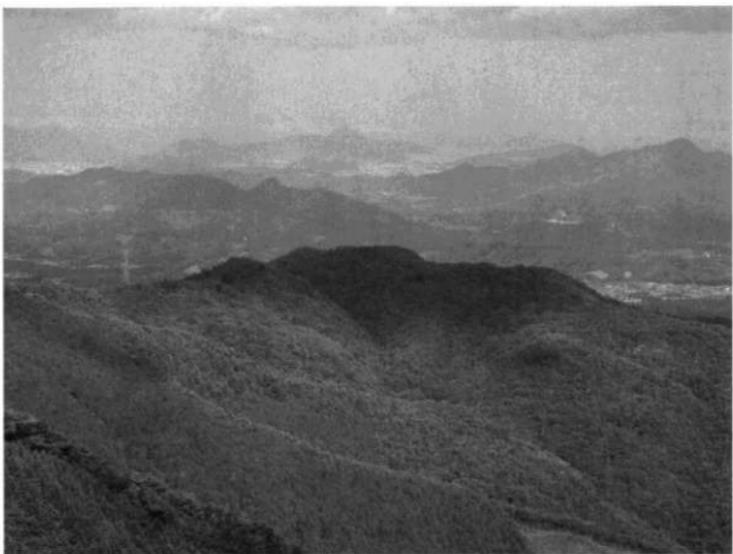
図版番号	種別・器種	出土地点	法量 (cm)		底存率	焼成	胎 土	色調・内面	備考
			口径	底径					
15 - 1	須恵器・鉢	第3テラス 淀土	7.3	7.5	底部1/8 底能2/8 脊部	精良、微妙粒	灰褐色5Y5/1	灰色5Y5/1	15-2と同一固体の可能性あり
15 - 2	須恵器・鉢	第3テラス 淀土	9.7	9.7	底部1/8 底部1/8	精良、微妙粒	灰色N6/0	黄褐色4/1	15-1と同一固体の可能性あり
15 - 3	黒色土器・鉢	第3テラス 磚土面上	6.1	6.1	底部1/8 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	黑色5YR2/1	褐色5YR7/8	内墨燒成
15 - 4	土器器・杯	第3テラス 淀土下位	7.0	7.0	底部1/8 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	明黃褐色2.5Y7/6	にぶい赤褐色5YR5/4	
15 - 5	土器器・杯	第3テラス 淀土中位	9.8	8.0	1.9	精良、石英・微妙粒	浅黄色2.5Y7/4		
15 - 6	土器器・杯	第3テラス 淀土	19.6	10.1	口縁部1/8 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	浅黃褐色10YR8/4	灰褐色10YR8/4	
15 - 7	須恵器・鉢	第3テラス 淀土	10.1	10.4	底部1/8 底部1/8	精良、石英・微妙粒	灰色10Y5/1	灰色10Y4/1	
15 - 8	土器器・壺	第3テラス 淀土	11.4	11.4	底部1/8 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	にぶい黄褐色10YR5/4	黄褐色2.5Y5/3	
15 - 9	土器器・壺	第3テラス 砂山面上	11.4	11.4	底部1/8 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	にぶい赤褐色5YR5/4	灰色10Y5/1	
15 - 10	土器器・壺	第3テラス 淀土	11.4	11.4	底部1/8 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	黄褐色2.5Y5/3	にぶい黄褐色2.5Y5/3	
15 - 11	須恵器・板用器	第3テラス 淀土	13.2	7.6	4.4	断面破片 底部1/8	オーリーブ灰色2.5Gy6/1	灰色N5/0	鐵磁片未用現
16 - 1	土器器・鉢	第3テラス 心礎石下部遺構	33.4	6.6	25.4	ほぼ完全 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	褐色10YR8/3	
16 - 2	土器器・長嗣甕	第4テラス 心礎石下部遺構	11.4	12.2	21.8	ほぼ完全 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	褐色2.5Y7/4	
16 - 3	土器器・壺	第5テラス 心礎石下部遺構	11.4	12.0	22.0	ほぼ完全 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	褐色2.5YR4/6	
16 - 4	土器器・壺	第6テラス 心礎石下部遺構	11.4	12.2	22.0	ほぼ完全 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	褐色2.5YR4/6	
16 - 5	土器器・壺	第7テラス 心礎石下部遺構	11.8	12.0	22.0	ほぼ完全 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	褐色2.5YR4/6	
16 - 6	土器器・壺	第8テラス 心礎石下部遺構	12.2	12.4	22.6	ほぼ完全 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	褐色2.5YR4/6	
16 - 7	土器器・壺	第9テラス 心礎石下部遺構	10.7	11.0	19.4	ほぼ完全 底部1/8	精良、角凹石・微妙粒	褐色2.5YR4/6	底部にヘラ記号
18 - 1	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	5.9	5.9	底部1/8 底部1/8	精良、石英・微妙粒	浅黃褐色2.5Y7/4	浅黄色2.5Y7/4	内面に黑色付着物
18 - 2	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	10.2	7.8	1.9	精良、角凹石・微妙粒	にぶい黄褐色10YR5/3	にぶい黄褐色10YR7/4	内面に黑色付着物
18 - 3	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	10.1	7.8	2.0	精良、角凹石・微妙粒	にぶい黄褐色2.5Y6/4	にぶい黄褐色2.5Y6/3	内面に黑色付着物
18 - 4	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	7.9	8.4	3.6	精良、石英・微妙粒	黄褐色2.5Y5/3	にぶい黄褐色10YR5/3	にぶい黄褐色2.5Y6/3
18 - 5	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	10.3	7.8	2.0	精良、角凹石・微妙粒	にぶい黄褐色2.5Y6/3	にぶい黄褐色2.5Y6/4	内面に黑色付着物
18 - 6	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	11.1	7.8	2.0	精良、角凹石・微妙粒	褐色2.5Y3/2	にぶい黄褐色5YR4/3	内面に黑色付着物
18 - 7	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	6.4	底部4/8	1.8	精良、角凹石・微妙粒	にぶい黄褐色2.5Y6/4	にぶい黄褐色2.5Y6/3	内面に黑色付着物
18 - 8	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上	8.4	底部4/8	1.8	精良、角凹石・微妙粒	浅黄色2.5Y7/4	にぶい黄褐色2.5Y6/4	内面に黑色付着物
18 - 9	土器器・杯	第2テラス 磚地土面上							

図版番号	種別・基種	出土地点	法量 (cm)		保存率	地成	施 土	色調・断面	備 考
			口径	底径					
18-11	土師器・灰	第2テラス 整地土面上			底部18 底好	精良、角閃石・微玲瓈	にぶい黄褐色10YR6/3	黄褐色5YR6/3	内面に黑色付着物
18-11	土師器・灰	第2テラス 流土下位	7.3	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-12	土師器・灰	第2テラス 流土	6.9	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-13	土師器・灰	第2テラス 流土下位	6.0	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-14	土師器・灰	第2テラス 流土下位	5.3	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-15	土師器・灰	第2テラス 流土下位	5.7	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-16	土師器・灰	第2テラス 流土下位	7.0	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-17	土師器・灰	第2テラス 流土下位	7.8	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-18	土師器・灰	第2テラス 流土下位	10.6	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-19	土師器・灰	第2テラス 流土下～下位	7.5	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-20	土師器・灰	第2テラス 流土上位	8.5	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-21	土師器・灰	第2テラス 流土中位	6.7	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-22	土師器・灰	第2テラス 流土下位	10.0	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-23	土師器・灰	第2テラス 流土中位	7.3	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-24	土師器・灰	第2テラス 流土下位	6.7	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4	にぶい黄褐色10YR6/4
18-25	土師器・灰	第2テラス 流土上位			破片	良好	灰褐色5YR6/2	灰褐色5YR6/2	外外面に黑色付着物
18-26	土師器・灰	第2テラス 八脚削鉢斜面 旧焼土	4.9	底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	赤褐色5YR6/8	赤褐色5YR6/8	赤褐色5YR6/8
18-27	土師器・灰	第2テラス 八脚削鉢斜面 灰土			底部18 底好	精良、	4.8 やや灰	赤褐色5YR6/8	赤褐色5YR6/8

第3表 中寺磨跡出土遺物観察表 (2) 鉄製品

図版番号	種 別	出土地点	法量 (cm)		保存率	材質	X線写真調査所見	色調・断面	備 考	
			残存長	最大幅(或大厚)						
15-12	執訂	第3テラス 流土中位	11.5	1.3	1.0	ほぼ完存	鉄	鉄が腐食し地表が入る 暗色7.5YR6/8	黒色7.5YR2/1	頭から軸にかけてのラインが鉛錆的
18-28	執訂	第2テラス 破壊土	12.0	0.9	0.8	ほぼ完存	鉄	全体が良好に保存 暗色7.5YR6/8	黒色7.5YR2/1	頭から軸にかけてのラインが鉛錆的
18-29	懸垂金具	第2テラス 整地土面上	13.9	0.5	0.3	一部	一端が輪柱に曲がる	暗色7.5YR6/8	暗褐色7.5YR3/4	
18-30	かすがい	第2テラス 整地土面上	4.9	0.9	0.3	一部	直角に屈曲	暗色7.5YR6/8	暗褐色7.5YR3/4	

※色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財团法人日本色彩研究所色票標準「新版標準色票1994年版重版」を参照した。  
※残存率は原則として完形品に対する実物の割合を 8 分割で記載し、それ以外についてはそれぞれ個別に記載した。



A) 中寺廃寺跡遠景（南東より）



B) 第3テラス調査着手前状況（西より）

図版3



A) 第3テラス3-b～3-b'断面 磁石以西（南より）



B) 第3テラス3-b～3-b'断面 磁石以東（南より）



A) 第3テラス3-c~3-c'断面 磐石以南（西より）



B) 第3テラス土壌南側法面検出状況（南東より）

図版5



A) 第3テラス3-c~3-c'断面 平坦地北端（西より）



B) 第3テラス溝状遺構完掘状況 硙石以西（南西より）

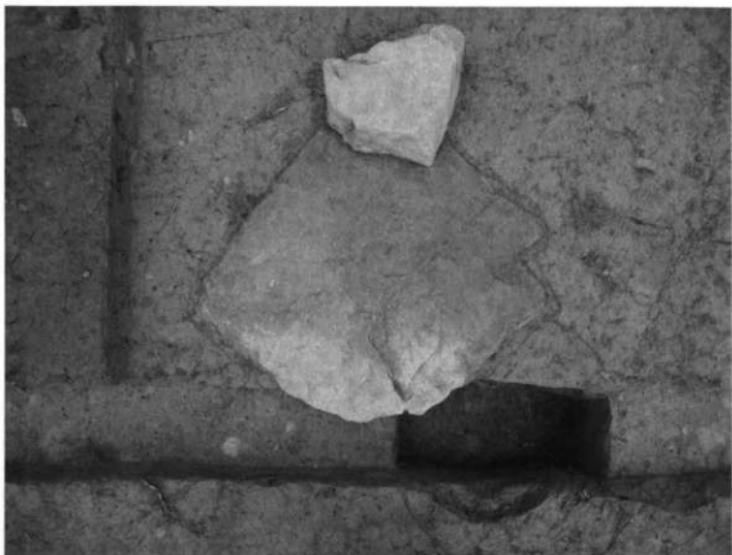


A) 第2テラス調査着手前状況（南東より）



B) 第2テラス掘立柱建物跡・礎石建物跡検出状況（北西より）

図版7



A) 第2テラス掘立柱建物跡柱穴と礎石建物跡礎石の切りあい（上が北）



B) 第2テラス2-a～2-a'断面 東から2番目の柱穴（南より）



A) 第2テラス2-c~2-c'断面 平坦地北端（西より）

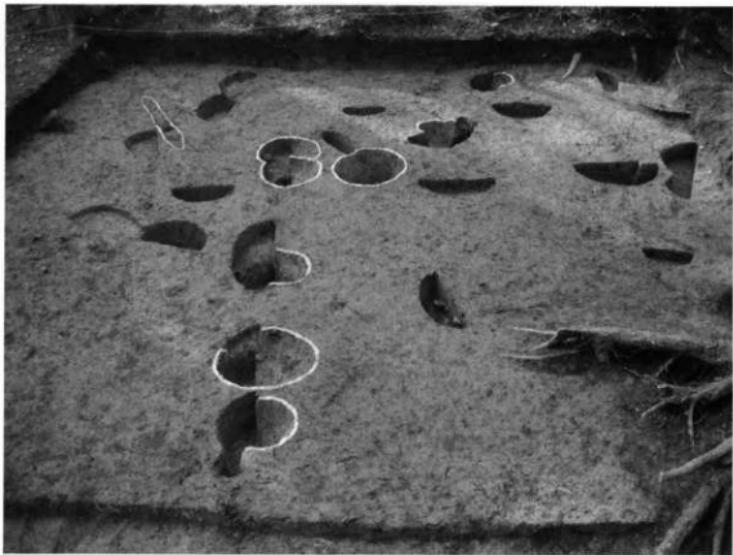


B) 第2テラス南側の緩斜面（南東より）

図版9



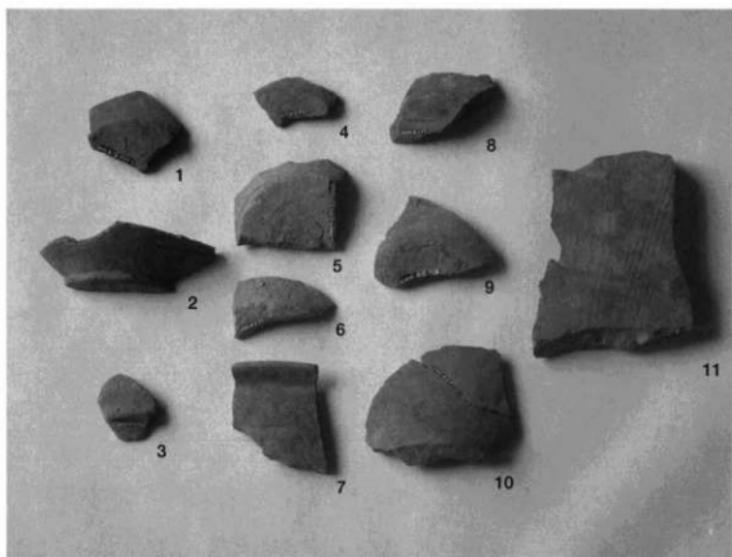
A) 第1テラス調査着手前状況（南より）



B) 第1テラス完掘状況（東より）

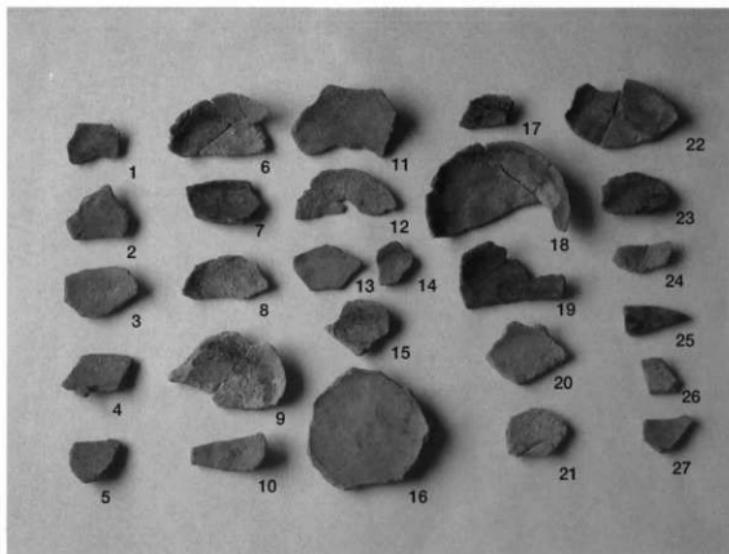


A) 第3テラス出土遺物（内面）

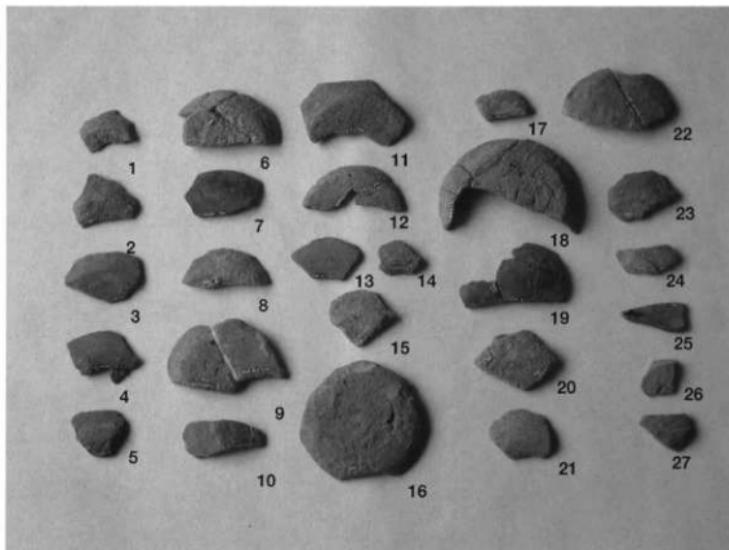


B) 第3テラス出土遺物（外面）

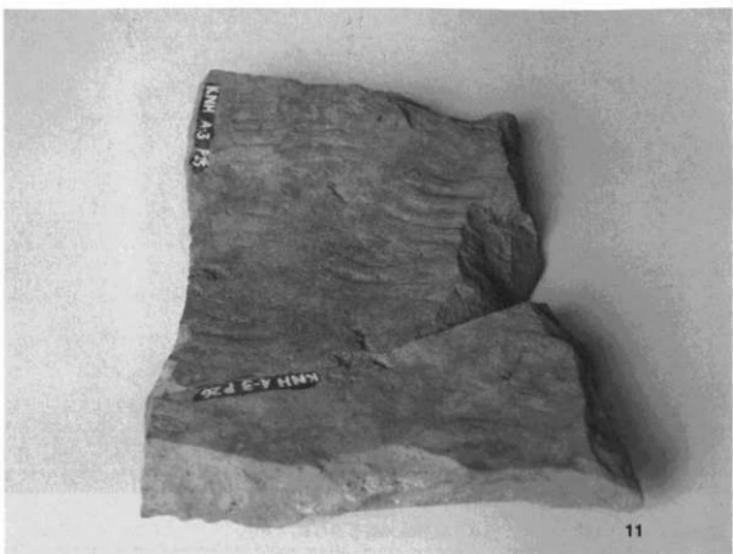
図版11



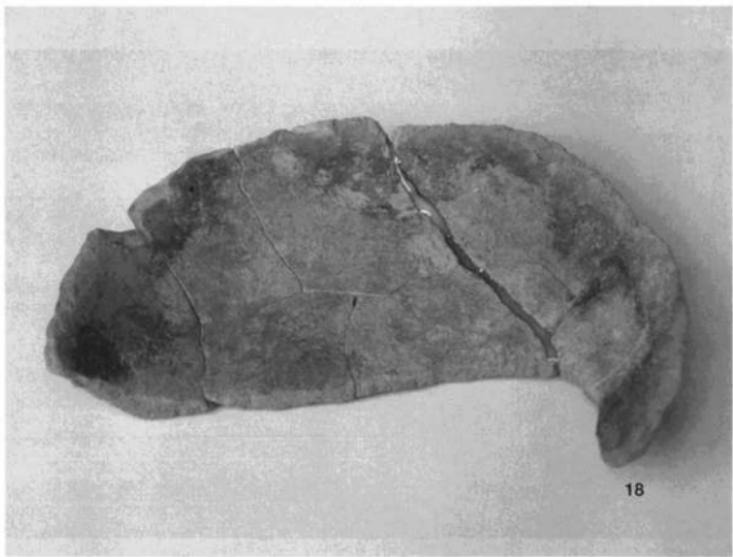
A) 第2テラス出土遺物 (内面)



B) 第2テラス出土遺物 (外面)

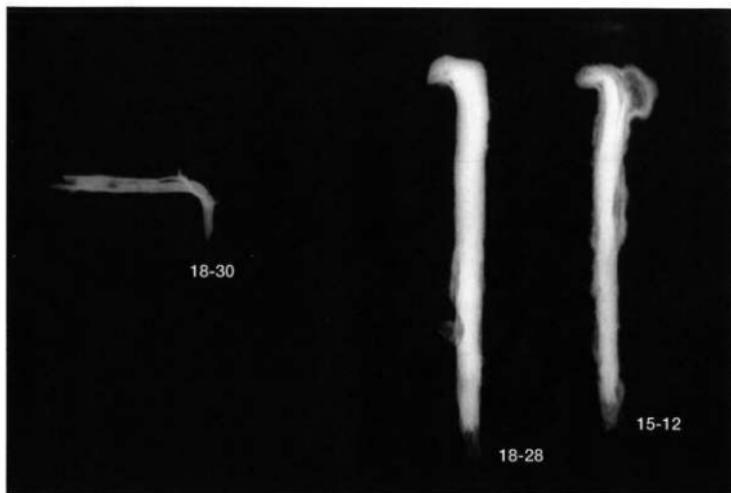


A) 第3テラス出土須恵器転用硯

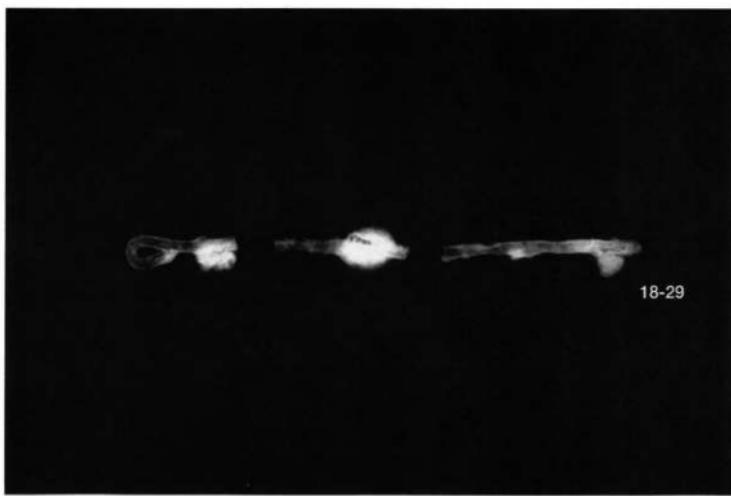


B) 第2テラス出土土器基内面

図版13



A) 鉄製品X線透過写真（1）



B) 鉄製品X線透過写真（2）

## 報告書抄録

琴南町内遺跡発掘調査報告書 第1集

中寺廃寺跡

平成16年度

編集・発行：琴南町教育委員会

※題字は金澤正親氏による

印 刷：(株)中央印刷所

発行年月日：平成17年3月31日

『琴南町内遺跡発掘調査報告書第1集 中寺廃寺跡 平成16年度』正誤表

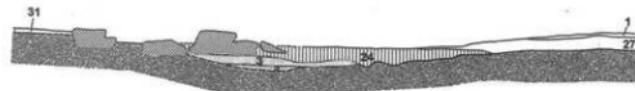
下記の通り訂正を願います。

4頁 第3図中寺廃寺平坦地分布図 桜の塚遺跡 D地区 平坦地の追加

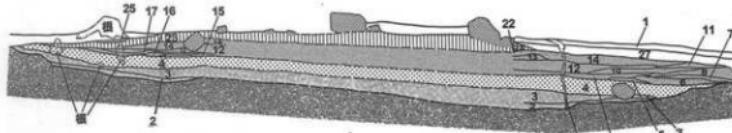


13~14頁 第7図 第3テラス断面図(1)

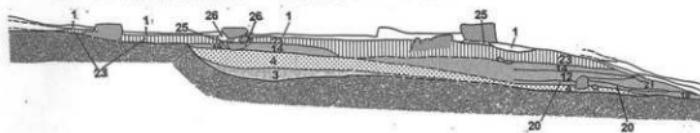
・3-a~3-a' 断面図(図上段) 土層番号3のトーン訂正



・3-b~3-b' 断面図(図中段)



・3-c~3-c' 断面図(図下段) 土層番号16→23に訂正



19~20頁 第10図 第2テラス断面図(1) 土層注記トーンの訂正

- 5. 開底赤色シルト(3番目の盛土)  
1.0~2.0mの開底赤色シルト地山ブロック多混  
1.0~2.0mの角礫層少混
- 7. 開底赤色シルト(3番目の盛土)  
開底赤色砂質土
- 9. 開底赤色砂質土(3番目の盛土)  
開底赤色シルト混
- 11. 開底赤色シルト(3番目の盛土)  
1.0~2.0mの開底少混
- 13. 開底赤色砂質土(2番目の盛土)  
0.5~1.0mの開底少混



22頁 第11図 第2テラス断面図(2) 土層注記トーンの訂正

- 2. 開底赤色シルト(3番目の盛土)  
開底赤色砂質土
- 3. 開底赤色砂質土(3番目の盛土)  
開底赤色シルト混
- 4. 開底赤色砂質土(3番目の盛土)  
1.5~2.0mの開底少混
- 5. 開底赤色シルト(3番目の盛土)
- 6. 開底赤色シルト(3番目の盛土)  
0.3~0.7mの開底少混
- 7. 開底赤色砂質土(1番目の盛土)  
開底赤色シルト混
- 8. 開底赤色シルト(1番目の盛土)  
0.3~0.6mの開底赤色シルト地山ブロック多混
- 9. 開底赤色シルト(1番目の盛土)  
0.1~0.3mの開底少混

